



## アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ

No. 26 / 2008年6月

「アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ」第26号をお届けします。  
今回は、9月8日（月）に東京工業大学で開催されるアンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ（第35回）と、9月16日（火）～19日（金）に明治大学生田キャンパス（川崎市）で開催される2008年ソサイエティ大会におけるAP研主催のシンポジウムについてお知らせします。

### 【1】アンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ（第35回）開催案内

アンテナ・伝播研究専門委員会では、関連する研究専門委員会と連携して、1994年度から第二種研究会として「アンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ」を開催して参りました。今回の第35回ワークショップでは、岩井先生（同志社大学）に講師をお願いし、「無線通信シミュレーションのための電波伝搬基礎」のテーマで、移動通信における電波伝搬をテーマとした初級コースを開催します。本講義は、無線通信システム・方式の研究者および開発者を対象とし、無線通信システムの性能評価のための計算機シミュレーションを実施するにあたり、前提として知っておくべき伝搬モデルに関する基礎知識を習得します。既に受講申し込みを受け付け中ですが、まだ申し込んでいらっしゃらない方はお急ぎください。先着順です。7月25日（金）まで受け付けの予定ですが、満員になり次第締め切ります。

#### 記

- ◆テーマ： 無線通信シミュレーションのための電波伝搬基礎
- ◆講師： 岩井 誠人（同志社大学）
- ◆主催： アンテナ・伝播研究専門委員会  
協賛： IEEE Japan Chapter Antennas and Propagation Society
- ◆講義内容  
以下の内容に沿って講習を進める予定です。
  - (1) 電波伝搬に関する基礎理論
  - (2) 移動通信環境における信号強度変動特性
  - (3) 移動通信環境におけるマルチパス遅延の影響
  - (4) セルラ移動通信環境の信号強度変動に関する伝搬モデル
  - (5) 遅延プロファイルモデル
  - (6) 計算機シミュレーションにおける伝搬モデルの使用例
- ◆日時： 2008年9月8日（月） 9：30～17：00
- ◆会場： 東京工業大学大岡山キャンパス 西9号館デジタル多目的ホール
- ◆受講定員： 100名
- ◆受講料： テキスト代金を含み  
一般／会員 13,000円、非会員 20,000円  
学生／会員 3,000円、非会員 7,000円
- ◆受講申し込み期間： 2008年6月2日（月）～7月25日（金）
- ◆受講申し込み方法： 学会誌の7月号の会告をご覧ください。また、詳細はアンテナ・伝播研究会ホームページ（<http://www.ieice.org/cs/ap/jpn/>）にも掲載されています。

## 【2】2008年ソサイエティ大会シンポジウム（投稿募集のご案内）

9月16日（火）～19日（金）に明治大学生田キャンパス（川崎市）で開催される2008年ソサイエティ大会において、AP研はRCS研究会と共催で、「BS-1：MIMO・協調通信におけるアンテナ・伝播・信号処理の最新技術」と題したシンポジウム（オーガナイザー：西森 健太郎氏 (NTT)）を企画しています。皆さんの積極的な投稿を期待いたします。なお、締め切りは一般講演と同じく、7/9(水) 17:00となっております。お申し込みの場合は、シンポジウム講演で“BS-1”を選択ください。

＜提案趣旨＞ 限られた帯域で周波数利用効率を向上させる技術として、MIMO技術が注目されている。MIMO伝送では、複数の送信アンテナから同一周波数で並列にデータを送信し、受信側ではそれらを復号処理技術で分離することで、無線区間の伝送速度を向上することができる。また、最近ではさらなる周波数利用効率向上の観点からマルチユーザMIMO通信に関する検討や、通信の信頼性を向上させる観点から、MIMO技術を用いた協調伝送に関する検討などが行われている。本シンポジウムでは、このような背景を踏まえて、MIMO技術を用いた最新技術（アンテナ、伝搬、信号処理など）について広く論文の投稿を公募し、現状の技術課題及び今後の技術展望についてディスカッションを行います。

## 【3】AP研副委員長の戯言

大学においては、高等学校を卒業した学生を受け入れて社会の要求に応えられる人材に育て上げる、ということが使命のひとつであろうと考えておりますが、若者の学力低下や理工系離れがすすむ一方、産業界においては新人をじっくりと教育するための時間や人材に余裕がないためか即戦力の人材を要求するようになってきており、理工系に入学してくる学生のレベルと産業界を中心とした社会の要求レベルとのギャップが、益々大きくなってきているように思います。これは単に学力だけの問題ではなく、受動的、消極的で目的意識や学ぶ意欲のない学生、また、ルールを守る、約束を守る、卑怯なことをしない、などの社会人としての最低限の常識を身につけていない学生、つまりは精神的にも未熟ではないかと思えるような学生が増えてきているように感じており、こういった学生を社会に出せるようにするための教育に係る負荷はますます増えていくのだろうと覚悟しています。一昔前までは、ねえやは15で嫁にいき、男子は15歳で元服していたことを考えると、この間、社会に何が起こったのかを考える必要がありそうです。今回は真面目なテーマですね。

ここからが戯言ですが..... ふと思ったのですが、これは人間の寿命に関係しているのではないのでしょうか。調べてみると、童謡「あかとんぼ」が作詞された1921年の頃の日本人の平均寿命は42-3歳、15歳までが義務教育という現在の教育システムや60歳を前提とした定年制度ができた1950年頃の平均寿命は62-3歳であり、現在の平均寿命80歳に比べるとずいぶんと低かったのです。ここで、人間の精神的成長は寿命で規格化すると一定である、と大胆に仮定すると（生物学的根拠はありませんよ）、現在の若者の精神的成長のスピードは「あかとんぼ」の頃の約半分ということになり、なんとなく納得できるような..... 世の中では20歳に代えて18歳から成人にしてしまおうという動きもあるようですが、私の仮説が正しいとするならば、むしろ、20歳位まで義務教育、25歳で成人式、30歳位で大学を卒業して就職、70歳を越えて定年を迎える、というのが妥当ではないかと思うのですがいかがでしょうか。しかし、そうなると、年金をもらえるのは75歳位からになりますか。困りましたね。

今回は戯言というよりも暴言になってしまいました。お許しください。



＜問合せ先＞

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 牧野滋（金沢工業大学）

E-mail : ap\_ac-chair@mail.ieice.org